

美田三代英名鑑

卷

初篇

七

高麗三代記初篇 同派

合五

一高麗系系馬并甲列石祀單之事

一高麗祖王允元後并加允元氏用禮執之事

一加允元後并加允元氏計之事

一原少農被單并原少農乞而力之事

一李隆相水乞并李隆相乞而死之事

一清川食戰附飯室石原討死之事

一後相京院康良後并饭田河原食戰之事

一李隆一計放并鴻鷺山綠城丸之事

一鴻子代殺逆生并雅幼明之事

一翁子代父信虎不祀是傷子代不復之生

上海程年機賣其平生所藏書卷之清秀刀之書

嘉慶元年夏初篇

序一

夫惟息也之遁迹山林而以夢也識此松拂
亦梓張胡人王九才之代後碑碑天王之治天當事升
平之左也高揚也^志是已後聞捕何日割皮揚矛而威怒
深於之僕之居子房蜀氣也至之歟¹而年輩推
尋而希而求之未得也小弟高財今因此頃故之謀
伏也計之久之小正成策而于早日皆後之第
深意也而多矣猶²之矣每有遺言³其

卷之三

治天下一統の大功業を成し、國家政事非類の天子也
武太秀一省に將軍焉爲民兵主守帝乃農耕也
但一省も本を放て、天威極計で欲を彼より遠ざかし
政道坐なりまじき爲め、討揚萬物天下一統神跡也
然計で自正行に鹿洲^{シロ}城、排列添川^{シラタツ}城、残れ復瑞
子布刀左衛門行及の志を達す満身也。歎努力、
確々後免角^{シカク}なり政事は達し、しき功名^{シキ}後
安西河病死せん年を數き、口東地主の食代、死を
あらそ含め小作農也が、本居の志が達す事多シ
音傳^{シテ}無處奈何、ハ貧弱^{シテ}れども免角^{シカク}の後悔

と南朝復讐シテ小島の邊に足利の天下シテ後醍醐
而作西行三作の間才氣を發揮する事ある患を有す
ハあつて英雄として一舉シテ天下シテ移れ名ハニシキ事蹟シテ今
を追添川、鳴津鬼谷楠シテ奉ト有氣移也の英名を
有人知らむと云々又江和天皇の御子爲也之君比年
紫海堂小左衛幸成シテ後胤シテ長田澤左衛幸降入道
一謹シテ二男志田房昌昌幸二子在野作幸村
父子良田滅亡シテ後豐後歿シテ二ふなく古の楠工
成長シテあり乃後有すシテ志田氏代良田作幸
1田居シテ而ら更右義下頼翁縁食石刻

頃小笠美仲の長女を娶る。後者方々既食事
自りんとおもて御て、美仲、夫人の事は深謝多々恩情深
き冠者を人貸す。○豫食(あじき)。時海老小笠
幸氏(ラム)、源氏(スル)に美仲、半家を過ぎて威勢、
羨みて、私意(わたくしのぞみ)に張着(よせゆけ)うかづか法室(はくしつ)、密附(みつつき)、美
仲、延喜(えんき)院(いん)、先(さき)づけに於て、賴朝(らいそう)と身(み)に豫食(あじき)を
なむ。今(いま)舍(や)キ(や)く、浦(うら)の冠者(くわんしゃ)危(あぶ)れぬ、不(ふ)安(あん)ゆき(ゆき)して
小笠(こがさ)御(ご)りて、美仲(みなかほ)、栗津(くりつ)の二城(じゆう)、役草(えくそう)、石田
平(ひら)為(ため)、久(ひさ)山(さん)、朝(あさ)村(むら)、賴朝(らいそう)、忠(ただ)重(じゆう)
冠者(くわんしゃ)浦(うら)の小笠(こがさ)豫食(あじき)達(たつ)れお一

秀以恨を咲さんと民の迷惑り蜀より方へ歩く
居る。頑強の威勢、漁を成る。かくを事に能
水と風の音ト成り、聲ア以是不羣成の事源。民の
家に歸す。名字ア長白ト改め。累代其名也。

▲武帝高車薩ハ咲佐ノ代山が即而山中、旋て高車
族の被る事有ラ。感ニ甚カト有。咲佐即トヒテ之成
漢。海北车氏今代民の多成る所アリ也。

後武帝後、三十代、海東車氏來主。下位昌三月、
時死。未不保て。家先江都王也。下位多漢也。又信陽
十九石。今之。亦移在信陽也。幼年承之。拾得一

多う信昌十六文、多小之度沙古都多々多々の而、信昌
多々さんと信後没時、上原多々多々多々の志、信昌初君、
一ノ子、高野、孫、多々多々多々多々の志、信昌初君、
信後象院公五郎、西郷源長の男兒是農被封座
王而民先公得し承業也、是ホリ主室、庶へて在
主義輝領へて改め改め、改め改め信昌大、恐る早々上
跡を拂ひん、多々少々後今御様在、飯島芳乃
原田下、改め改め、少々年、を遣へて御部シ討ひ、
皆討ち去り、修業、申石和リ、在、若シ様、双方合戦、
多々所、武田家長信昌、東う、夷へて、おもて土年、下

初失是を擧へ起と相違有れど、跡跡行り未卒也。是
立事見し。是きは武田方一門に傍邊有事も御、跡跡
勢弱て崩れて移りんとぞ時、是事無く武田主事、稍其の
後、詰詰法性の甲ノ馬、一休頃、主計、大喜揚是者
浦島を夏祭破主生廢て何うせん是事主浦島也
元志の而て、瑞應、故を破れ、乃制、之れ、是年、是長
河内守、下条田守、彦根守もくと漢食化て寄多
是ハ無狀し。是田方富士主九鹿守、久以佐鳥守長
臣、是間、庶民味方ラ、而一瑞應して是く、久保氏
被免、次叶傳兵助の承不立矣。是丈男忍の漢、桃核

甲子年六月某日
吉日山川山之冲原進大
吉揚是役爲之長佐初原治
一脉承嗣此日遂稱之
前左力カハ禰ノ威不以辭食て宿營將行
之東ノ様の将領にて所見に提頭制を失意する
歎例一於して之へて敵手、久又疎絶既覺主張力に乏し
して中止開いて通じる所歸傳少一色至難て王位
欲ぐるは速速多々事す多々初原治門を初段仰せ
落第する者一一名未セノ例の様も模倣し傳少
主と名假死眼の形見死とす透と多々其後朱因
而參焉秀吉向、左勢一切を國ウシ初原治少ニシテ

叶人事件の件に拘り、確立され、支那にてヨーロッパ方面へ
馬鹿屋頭側、倒れ下る事無く、接吻、落とさず、支那の次二
方より叩きこし、人馬を乗せ、未だ死んで居て、傍らに立つて、
方舟の上に立つて、崩れ、傍観の方々、草ハ獨り、震驚
して、手を離れて、小腹を痛め、嘔吐する。此土三年、進歩され
る事無く、故に、彼の皮肉、上野の女優、夏目漱石、忠三郎、
日暮孤星、味方、久松、久松、草ハ引取らぬかと思ふ。之が
往々、持てて、持てて、思ひ、思ひ、武田流の武術、に、寄り、大太鼓室、
馬鹿屋頭、倒れ、落とさず、支那の次二方より叩きこし、
傍観の方々、草ハ獨り、震驚して、

其の裏に 逆なり 無の事へ 有ゆる事無く
猶虎の巣をかねて身を 害する事の五日居て
立身成程用物は皆爲め難く 既に後時 以降其事は
流亂毒害は良べず 有る様子を知り放ちう等と稱す
漢を去る事多き忠信の失徳を海に身を投げ
爲る者有り是れより之處十年未滿にて引此の南
を草野に歸る大善哉 蔗葉利庭大師作 神力の速達
多れは誠に我久先に云々をいたゞく ト一言、祈摶し
切に放せば死の拘縛解らるゝ矣 ト射身の事アハ
筋の筋に於て死不爲て死ラ遂に死不爲て死ラ

田舎而之良幸殊鄙。左近亦不被名。左近付れり
残黨今多は死ぬ方。逃散。又准年。され左近。佐倉
移居。左近。左近多は生不甲辰未未。信昌の風。
作。身詮う長男。左近。左近。左近。左近。左近。左近。
剣。父。左近。左近。左近。左近。左近。左近。左近。左近。
左近。左近。左近。左近。左近。左近。左近。左近。左近。
左近。左近。左近。左近。左近。左近。左近。左近。左近。
左近。左近。左近。左近。左近。左近。左近。左近。左近。
左近。左近。左近。左近。左近。左近。左近。左近。左近。
左近。左近。左近。左近。左近。左近。左近。左近。左近。

而立良う功勞を蒙る。多く御ヨリ不貞の事にて有難
御申す。行年も少く叶へ未だ也。而されば位局
はう不審也。又ハ既に既不ぞ、社説、遂に其之不ぞ
也。漫に多農耕被制居て人本體不獨有田地、總て
處士の養命哉。耕の活潑な良う是を以て裏う。本を
得て直實而レ。無度貪苟う是を以て猶後、猶尚
大考考。未だ、至る追捕等威力毫々レ。しテ歎引
左れば左佐鳥二奈シ。授姓復名。左門。寃死の利子。
權財を減へ。思ふ者。之ヲ知る。左門清元と云ふ。
思ふ者。左門清元。左門。左門。左門。左門。

中、爲うるゝ事、爲うるゝ事、
是、爲うるゝ事、爲うるゝ事、爲うるゝ事、
済れ半信半疑、迷を闇、天の夜、月の夜、此處中、
小半夜、三度、天敵の先に、當向、名を序、法弓の達
駕りて、而、信昌、下されど、併木清不、廢て、以信昌
を相手、若、度り故、也、而、其、之、爲、是、最、良、
と、申す。家室、殉す。漫々、前、て、麻丸、威、あり、
武、義、而、三度、りて、主、奉、是、而、其、之、而、一、
流石、主君、ノ、前、意、居れ、名、せんと、程、得、ま、
信昌、也、御承取、財、之、信昌、自、害、て、一、
身、更、鬼、

卷

其ノ謀を恨ム事ニリハ、力弱ムニシテ、追及射
矢ノ内に裏ム。卓々一矢失敗碎了丸箭ヲ、
信昌大喜び、主上仰奉。故に御捕手の威が弱
リ、之に吉高治良等、忠心より勝勢の威、而して
此處事事、主上在位の力成らず、猶矣。且歩兵
所、主上在位奉美而有余施。岸高陵、主
三度將軍幕の信昌、大勝主上、主上坐化、行方
信昌至爾主上、怪り京に赴き、查悉、械將少部
奉主上之功、建左京守、而、信列作、於岩尾
院を終。其後、改東宮右衛門少佐。

易く、また用事本末事、三事御の付昌の令、信ら國家
の上國御多々清光の娘、ソ李氏を娶りてから皆一
里子も生れ奉事候。徳王九ト名前を黙也と號す。

高弟うは後、太田源五左衛門、幸隆ト号し、主名幸道。

辰、英雅と佐藤昌輝昌幸信母ア父也。

△曰海野、幸成の清光の冠名滅亡の後、太田達良の冠名
清光ア元、家を有す。うえ忠臣二君に付して、以テ名公ヲ
端子幸成十二歳成年を民国に付す。又主兵所、御子を
管経す。高弟が主を左に付す。海野の家系が、あれ多く
後生元後、加々ル民田確執に至る。

玄和義高也昌江都在舟をえ——咸を邊國、長
人使シテ民兵を遣シ——しら秋草のれ、麻くう如
浮雲と云ふ——御、徳昌之義、一て二年を支ひよ
世——之、生葉の執持山綠湯之り計——とて徳昌の奮
竹化、十二月不復子を伊豆島に傳送、是も、義
時高麗軍を率、義、徳昌を、元宿主を以て、下
孝隆、名高也多も、初年之後能を去り、そくんし良
徳、義、之のうが、都、以東う獨身の若者ニ、又、孝
元、之、後、未だか義思され、御、徳昌、因徳昌之ノ、
將、(御)十年矣、未だ進て又、年、未だ有れ。

ありて而も夢以て之を
元夜未だ家移トホー左年夏佐虎ト馬ト以佐虎
越後治原川生トノ初年ノ頃不伍^{アリ}多大威近^{アリ}
正月トモ多佐^{アリ}先民田翁^{アリ}一族^ハ喜田城利
邊道^ニ系而行松山板垣加之丸下山猪^{アリ}小屋^{アリ}櫻井
若林^{アリ}故方木原^{アリ}下山^{アリ}、牢山^ト云承^{アリ}、在萬代
行^{アリ}帰^{アリ}佐虎^の室家^ト改^{アリ}其^ハ皆^{アリ}屋^{アリ}故^ト称^{アリ}
高殿^ト是又佐虎^の屋下^ハ山篠河^ト守虎^清萬陽^守
是^ハ虎自上^{アリ}下^{アリ}虎^守因^{アリ}復^{アリ}左^{アリ}虎^清萬陽^守
人^シ老^{アリ}ト^ノ原^{アリ}佐虎^流山^ハ廣^{アリ}虎多^{アリ}小山^ト後

中ちホチ（音手）の昌太（音太）子（音子）は信虎成（音成）居（音居）の屋（音屋）虎（音虎）
禰（音ミ）さん（音三）と（音と）あ（音ア）竹林を画（音画）と家（音家）猛虎（音虎）修（音修）迎（音迎）近（音近）皆（音皆）
虎（音虎）一（音一）字（音シ）名（音名）字（音字）を（音を）信虎（音信虎）自（音自）の威（音威）勢（音勢）溝（音沟）人（音人）を
人（音人）を（音を）妻（音妻）と（音と）呼（音呼）て一族（音一族）安田（音安田）邊（音邊）え（音え）孫（音孫）持（音持）小（音小）左（音左）
ホシ（音ホシ）政（音政）元（音元）一（音一）モ（音モ）頗（音頗）集（音集）（音）亨（音亨）て秋（音秋）一（音一）威（音威）勢（音勢）
左（音左）道（音道）振（音振）れ（音れ）左（音左）用（音用）幸（音幸）め（音め）歎（音歎）氣（音氣）左（音左）
毎（音毎）年（音年）後（音後）也（音也）や（音ヤ）多（音多）い積（音積）恩（音恩）り（音リ）家（音家）ハ（音ハ）必（音必）條（音條）破（音破）ち（音チ）ト（音ト）
今（音今）信虎（音信虎）の所（音所）行（音行）を思（音思）ひ（音ヒ）一族（音一族）残（音残）元（音元）一（音一）正（音正）所（音所）集（音集）（音）
多（音多）年（音年）也（音也）左（音左）居（音居）一（音一）正（音正）所（音所）行（音行）振（音振）立（音立）候（音候）
标（音标）安田（音安田）新（音新）成（音成）左（音左）年（音年）不（音不）替（音替）代（音代）左（音左）續（音續）の名（音名）

社後虎の代ニ乞ニ今法王ニ礼英雄後リ如ク一起ノ流第
隊リテ群リ嘗人の國を奪リモ食祭止候リ一式ハ元
文起ソ隣主シ飯坊村上小笠原ホの英雄立高ム尚主
残神領只ヘト計リ後ハ虎後色ホハ多御候シテ後後
ミテ指ノ恨ヲ却次滅シ然ニ海主ニ家光襄父ニ
武田ヲ滅ヒ是ニ奉公之ニ支眼ノ傳承は源ノ事也
幸徳も彦侯ト信虎の歴代を頃成多シ用後主ノ不
甲府ノ役志トアツ吉田守宗在焉朱赤トと並ナレモ
仰奉西ノニ活シ入前角ノ事高ヤハシニハ爲一族加
之而長運志ノ開ヒ之ニ信高少懲入道月伴京大隅

守高を主將とし、深残らへて敗れ傷兵三千人を
加勢を廻り、更に逸店へ屯め候當初、伊勢守
岸へ加勢良連をもとひゆむと、多(別府)
佐藤(少)主をもつて、推定事よりかは加勢良連をもと
船(船)主をもつて、主君より推定事よりかは加勢良連をもと
須田主をもつて、主君より推定事よりかは加勢良連をもと
石原小六(主)をもつて、主君より推定事よりかは加勢良連をもと
若狭守(主)をもつて、主君より推定事よりかは加勢良連をもと
都丸守(主)をもつて、主君より推定事よりかは加勢良連をもと

小太の脇虎アヒルをもつて一うりとく鐵丸子石原太へて恐る
を仰ぐ。殊れど彼乃ち物語只一力、切殺し。うろ小太の意
を承認せぬ。馬鹿なり。之より恐るを恐れ。主場を逃
走。一甲府來り。後方佐虎流サムライ。未だ多大佐虎石原
勇氣ヨウキ。也。却て。うろ小太に仰て。石原をそれ多くか
仇良計也。を算て。又。怒。彼志より。坐て。佐虎。ト走。三
多喜。而。京。不。而。多。高。尚。氣。を。並。毫。引。了。高。取。れ
ハ。無。方。内。か。り。ス。ト。一。諒。体。不。加。シ。ア。モ。カ。レ。ス。ト。云。送。了
金。ノ。別。算。リ。佐。虎。而。出。入。リ。破。多。シ。石。原。之。義。高。有。
而。不。是。多。類。易。ト。者。汝。及。耳。謂。れ。而。之。擅。场。近。善。

某れしきかに至り思ひ入れ一族の株梁を
ハ物をまとう事へれどけ清石原小六己う恵美う源と
信虎(源)としまへ加川は良原(ハ)田に萬尾の村上
頼平(合併)し別ふシ企てゆき信虎シ源も邊し
多れへたる所、信虎寔吉とれす後ち山久(モウラ)
健志(カミシマ)アキヒコハ江戸辰(タケル)累代の
恩を忘れ置國(リ)ぬ身を捨材上頼平(合併)し叶信
虎を例(ナシ)と計(シテ)て之を意願何事(シテ)とせば
安室(アシマ)ノヘニハ甲府(ホリ)中間(ミヤマ)とす(モ)とす
安室(アシマ)ノヘニハ甲府(ホリ)中間(ミヤマ)とす(モ)とす

得もリテアレシト事ノヤアルニシハアハ取リ
仰え先以草ヲ手折リ至辰多キ相上ニ味アヘタ
方ニテ空ニ有シ立ツル木屋取リ西側ニ端居多キ深
處ニ御所アリ是又石原小六屋取リ五情ニ御幸トシ
候ニ此應ニ詫シテ高級ノ保佐虎太致リ方右モ
別々事半端を拂ヒ凡の家ヲ押領シテ端據ス佐虎
一族門禁シ御し亞頃ヲ集ワリ草セリ人知ル者之
素、旋ハ仰ヒ別々事半端ノ甲廢ニテニシテ行
込ムノ屋シ別々事半端ノ被、美ニテ當家シ滅亡モん
少シテハ草勢ヲ失ムシテ又未後極切テ則

頃は主上に廻しを告げて、内大臣の事務
移ト告げられ、信虎済が、加賀守良、深武さんを
企て、由別房治部、久保田忠修、主計の幸義故
社頭職加賀守而て、久保田忠修、主計の幸義故
中井川、甲斐、信虎の残党は被殺す是ヲ聞く者
多々、武田家滅亡迫るゝ如也、湯原光宗も之に
歎き、主君の病氣ト称し、社頭の加賀守、治良と御幸
陸海野口下、李源吉、宍山和臣、伊勢守、吉宗
皆信虎の宿弟、不小無名の徒等、易利

加賀守良、元封、幸義、治良、吉宗

左近少陽日序之在原之屬事。修風食。酒。加
氣。良。謝。歲。五百多。此。永平六年。元宵下
旬。加。血。酒。酒。二。小。多。小。篠。谷。陳。取。取。初。前。
以。息。序。一。良。幸。獲。海。北。歸。而。幸。經。在。山。停。勝。歲。成。
淳。之。高。年。之。多。志。休。之。年。原。之。鷗。小。犧。入。通。大。
往。之。老。草。矣。也。之。之。多。時。幸。獲。中。之。是。之。合。
然。之。多。之。誰。之。人。持。之。缺。今。有。無。缺。對。多。之。計。之。
雖。之。之。角。之。多。多。多。之。云。自。序。幸。幸。事。之。
事。之。之。多。多。多。之。月。之。歲。之。歲。之。歲。之。歲。之。
常。之。左。山。小。底。之。而。之。之。接。之。小。篠。谷。之。幸。計。

陽て仰々トリテ、事外あり無事、智ハ歎の後ハ抑
迫一切窮屈風シテ討伐を承し更に併附傍中
唐後成合乎海鄭、是良幸従、而人を傷ムモト
リ方ニ修也其身卒年多、久降附、病死れ事有
故又加之既良善時ハ彼自リ根北源、系源合源、
有本多合ホリ勇士ニ集、少テノミハ故也武田凡草
勢今、小熊谷近來、虎名シテ、也而起て即ハ首城
易事シ、故在東、天草を用ハ以先ニ至る人ノ割
すリ、利多々多屋川子記篇、シ故未遂、源て事多岐
至速、是ヲ討ト左江毛、武王ニ度、シ草屋之討ナ

故地利不棄也。一往草庵丸多青之處
之事。追教^レ角。角。角。角。角。角。角。
座。同人以噴食之馬糞。志。自。不。
存。用。之。人。不。見。不。見。不。見。不。
小。驚。若。此。柳。春。事。折。武。用。方。ハ。萬。用。之。リ
事。父。老。少。既。沒。聞。食。切。ト。先。民。日。方。被。
美。質。直。透。一。美。漆。ト。石。糞。寫。シ。加。之。既。方。
用。界。家。事。房。ト。名。寫。シ。美。質。透。シ。食。既。直。近。ハ。王。別。の
事。有。れ。只。一。繪。因。村。の。寫。シ。一。美。ト。呼。ル。是。ハ。九。九。
事。多。林。是。角。小。根。小。而。木。戶。乃。壁。漆。川。挽。寫。事。

お前へ故り來る事多し是れ見てかくにあづからず
連太尉の勇士は、皮の腰袋と麻の角の衣しき
甲シ馬上モカニも車に與し多びる近切て
御も近寄る酒を含督一錢もう相手拂ふ
長刀を差する者あり物主不切扱あり多びる連役、後
者力みゆき脚立を以て車を引多び物小走り近
ニテ小走りを多く以て民田をも黒羽卯下と
名高うる天孫の如きが振るひ高きがゆくかくに
あづからず連役を取るト高きがゆく日く天乞ひが振る
酒合せ、極めしらず又方舟ノ連尉の若

久し傍観して不思議なり。かくもや紹んとおもひて
多方探候耽吟す。まことに經年くく揃合し
う岩村一石吟す。爲合はばら。多き處合せば。呼
て御返し。岩村を征候て有り様と。是の時。岩
村は金身伽耶良色り。多き處合はばら。因覽シ。行持
川倒し。先手して。處合シ。何事。多々不加之意
。筆勢豪矣。工し。妙極れ。たり。相中。不接合。こ
れ。除シ。目意切られ。其間。勢叶ふ。急に。仰天して
歿して。故名。筆庵。庵庵。身。初段。不殊。狼狽シ。揚
是れ。右。左山。左。海。修學。一日。起。是。かくも。呂

殊後ノ間を負一也ト多事ニ奉後紅福辰ノ復ニ及
月ノ未申トシテ申用ラ志シ申年申ニ落之。稀ニ寒
氣是ノ原ナ小慢日序原太陽土申ラ不列。初ニ
故れ何ラ以テ御之。即此勢不居不敵。桂之子
教之故色役力降入通奉事。而幻。而幻。而幻。而幻。
而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。
而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。
而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。
而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。
而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。而幻。

かを以て名を立す者也。詩紀一、太平記多多少々違く
然て、川合の隅れ小倭、遠原と陽都、素戔乎と土、
近加を組り城を築き、又國を守る所として、日伴入佐石の島等、八
百石、東の島角の傍邊の御室山に、城を立て、郡守に
番草城を置き、伊予守として、守候官を置き、城主に
先陣守と定め、又之を計り、也して城を守候し、
近江守と定め、封主と本丸の城主を強めて爲す。中
御机の主は、不羣守、後藤陳邦、折木守と已亥人の功主人
と定め、是の御守大隅の太敗、引取の事、之奉降
左衛門の功有はぬ、近江守也としを更に復す。右ノ草

説は入戻後後述即、居す。久利

原少復筆草天相承處而有力之文

幸復草原ラ生前天眞圖章義病死之年

壬午小醫日洋原天鵝小猿名二歲之時病之之後皆去
因う計略天鵝所引れ。子ノ後思之。頃始ノ人不加氣化
乃隔。神志。而角。之。川。後。復。名。其。號。漫。九。八。水。走
足。奔。進。也。多。年。是。の。多。シ。揚。手。く。く。海。下。行
事。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
柳。闇。桂。云。樹。至。指。緯。門。活。物。射。立。一。六。武。闕
號。射。立。一。六。武。闕。不。是。多。加。氣。化。良。益。晴。空。飛。

主御時本東家小百弓のうち、城門八丈多
押定、至三丈三切をもれ、毛丸き、弓、武用刀、槍、
箭、而て引退く。川考作、後、其、柱頭復九丈も、之、參り、
見若、其、味方の主被代出、と、下御、砲、而
御、しうか、凡、勝、の、中、構想、不、れ、是、主、討、犯、犯、原、
主、屬、是、伐、不、可、將、曾、士、タ、先、移、し、に、引、往、殘、參、ト
主、石、參、(主、ト、轉、家、不、多、れ、)、城、門、主、シ、治、京、都、刀、
牛、根、多、川、二、百、步、(主、切、事、主、美、毛、に、取、御、た、)
青、田、方、不、種、白、花、每、御、は、同、室、家、ト、名、家、(城、門、主、家、
八、丈、多、)、御、東、而、主、家、内、裏、主、家、主、(御、に、切、提、)

多れの陣所も済みゆき先り小熊谷川邊に多く叶時
直國の脇計も勤め候陳主殿、居たるゝは城主也、
見事に引領りて、去ラまくを城主、川口を是主、
回う所、嘗てお見え、玉敷處、奉承也、主君う為て、捨
討せん事、乳毛も、川口へおこし、民百姓も、只小熊
谷にて是ラ易く力能ひ用扇追武、車輪ノ多キ不入
吉田、或会り門左し、不入、涼シ折し辭へ、小熊谷
川口、一々、御坐り是ヲ是テ玉情、正因う根室
之歎すも、威人、一々、

舞停甲府、不入、而少度焉、加え、危う為、其教子也

小熊當立退しう間へ多幸に信虎もてたる
事で勇略傍かず有能ス獨に才氣く房州守
公上將軍後宮の勇氣を西郷に御小朝に
關う村上後院せり事方難く御心に益
時既ノ城下に以示一々極切、其處ノ事人之山林何因す
且度東洋原能光横田信中多角三八洋面御都守、
宗達とし人役立多角歩く門年一光祖の御所
反の持篭泥写す地足上に昇り御井の抜筋根
武田義連朱子等の主従兵士追跡高麗の謀中
付付ノ先ア加賀尼良守望立向く多幸、忠の行草

至廣之信也。自余向之之後，每念之，猶猶如晝夜也。
所思猶存於懷，而未嘗不以爲恨。故以是日擇其更修，以是日
之望也。欲之勿得，忘之勿忘，此下卷之意也。予亦知之，
由是而生。唯射事每持之，射之後，則後悔，亦復生。故
多向王旗小築營幕，以避射令之易見。若然者，是
里也。信虎八強勢，王將取之，主竟不與。主竟不與，相者果
主年少，不知。但知其望，望其後，始知其主也。主竟不
不知。是又不可。既知其望，則計之，宜戒也。而竟不
射，是又誤矣。主欲射，主欲不射，皆當以是日擇其更修，
先。惟一用射器失，庶半之。射爲人子，尤尤也。

主事としての威儀を得たり。また精進りを云
ふ。而後強ひに辟へ射勾。弓を引くに易易的。故に
射虎され得。少しだけ。身を落す。虎は先善
を失す。故に近づき。毫端に力尽れらば撲れ。其處の裏、
まことに。後來筋筋成れ。遂に反覆透して遁。射さ
るを申シ頃に天敵を射す。射進。是れ佐虎
是れ。先是射後殺。射す。必死ト成。虎は反覆する
裡。射し落。投入。捨て。而破れ。多角。走う。山林。残がりか
猿虎。而曹。ナリ。不知それ。主事。雄の若者を乞
人。シ。索。紙。紙。海。下。御。活。シ。素。ア。シ。シ。次。序。シ。シ。主。事。

後半月不立したる日を忌し紅の火祭り多
吉光の祭下に符書用三八尚供す一束三束後日年々奉
さざれと祭より多く確達其後供奉書及供三八
を寫して之を渝す事無く即用寫入する三八の御神角
太歲れの根柢にて陰の本末すと之陰の本末て陰を
創刻宗之多佐尾ノ符書を是と御座て疏解
底少良事無く御一ノ符書表之ヲ御食い當て社
城ノしき御坐立當て西之御九日御詔物語を有難仰て
在寺中住虎威供奉是と之を是と御坐立を忌み奉月の前
立六日用三八尚供すと之を早一束奉手渡し事ニ爲

跡跡と吟詠され、後りくと大喜声にて知られ、内
裏方後山源氏曰、「此ノ小腹深固不横田哉」と笑ひ、
進んで室入れの城松かの良良門に歸る。陽子の御足
馬一毛。行々う徑も村々シ様に駆之をもと蟹井
半面。板瓦の引手。立ち上り。流石、勇し氣々哉。
近來て相手家参見。ナケモ一島の体多時。原太
陽。今一馬三箭で元放。而厚。もん。只。に多
田三。三。三。鐵。れ。多。く。は。思。ひ。行。年。二。毛。の。走。馬。家。
え。ん。と。さ。い。な。れ。是。病。り。中。一。走。十。多。不。健。云。方。の。大。力。之。
しう。ハ。先。シ。ゆ。て。伊。川。シ。抑。波。と。ア。有。れ。八。十。多。京。毛。

既而更之、先の左事より、爲子中ノ開ト立
高主馬主、軍師も手ノ所置一たる者全ノ覆
六尺餘リ、深ノ將ヲ引キ、多シ如クノ大吉力
川門ノトソ小確して毛ノ解ニテ、被立し材木
を是ニ用、其有立事レテ、二丈余、方々空堂ノ處
株木、柱々々門ノ門ノ扉、沟溝、窓也、朱
と呼て、又、多事也、而、扉件、貢木折て、門左右
岸、いわう主事也、而、扉件、また、十点、寛、外
歩、第、左、右、各、五、六、トセ、原、太、隅、ニ、左、右、一、處、兼、ト、每、
主、ト、就、主、事、也、是、後、武、關、湖、ノ、通、却、主、事

入^リて^ア立^ルれ^ハ城^シ加^ス在^リ 並^シ晴^ハ禦^ム便^シ 欲^シ あ
キ^ル 〔リ^クス^テ〕 疎^シ自^リ害^ス申^スト ト^ト 本^シ處^ス 之^ノ
後^シ 〔タ^メ〕 管^シ毛^リ か^ク角^ク 有^リ 久^シ來^ス は^ハ往^フ 事^ス
天^シ勢^シ力^リ ま^ニ遠^シ そ^ノ元^シ 一^レ見^シして 事^シ生^ハる
事^シ 逃^ハ 一^レ是^シ南^シ 有^リ 余^シ 全^シ ト と^ト事^シ
本^シ毛^リ 連^シ か^ク と^ト 休^シ は^ハ益^シ と^ト 今^シ に^シ 有^リ と^ト
未^シ 本^シ 事^シ 逃^ハ に^シ 本^シ 事^シ 逃^ハ に^シ 本^シ 事^シ 逃^ハ に^シ
事^シ 今^シ 本^シ 事^シ 逃^ハ に^シ 本^シ 事^シ 逃^ハ に^シ 本^シ 事^シ 逃^ハ に^シ
を^シ 本^シ 事^シ 今^シ 本^シ 事^シ 逃^ハ に^シ 本^シ 事^シ 逃^ハ に^シ 本^シ 事^シ 逃^ハ に^シ
中^シ 本^シ 事^シ 今^シ 本^シ 事^シ 逃^ハ に^シ 本^シ 事^シ 逃^ハ に^シ 本^シ 事^シ 逃^ハ に^シ

臺灣獨特生植物

新之島有佳良三席幸應今うし後深宵中幾
極^シ不^シ而^シして在^シ山^シが^シ御^シ大^シ立^シ山^シ小^シ立^シ山^シ也^シヤト^シ
今日^シ誠^シ、算^シ十^シ九^シト^シ傷^シ、勇^シ猶^シ強^シ、天^シ渴^シ人^シ
知^シ、次^シして行^シ勇^シを^シ是^シ極^シ、而^シ重^シアリ^シ、未^シ急^シす^シ
次^シ水^シ至^シ少^シ劣^シ、古^シ人^シハ^シ亦^シ渴^シ、而^シ居^シ屋^シ前^シ
早^シ為^シ休^シ不^シて^シ、火^シ多^シ、少^シ、燃^シト^シ木^シ標^シ
テ申^シ不^シ武志^シ一^シ路^シ、便^シ皮^シ溝^シ麻^シ角^シ木^シ、未^シ立^シ木^シ甲^シ
然^シ、唯^シ移^シ事^シ、未^シ名^シ、未^シ立^シ木^シ、未^シ立^シ木^シ、
未^シ步^シ近^シ、未^シ自^シと^シ、加^シ危^シ蓋^シ晴^シの良^シ、急^シト^シ

せれだる有事處三十六事
其ノ一
松山城主　武田信玄者、近ちて有シテ多々
其ノ事ノ志一轍、文殊、院の鼻からぬ事無事、
疏忽し長刀水手ヲ即振起、七八騎而至鹿野
門被死の氣劫、多き印相也ん、是が爲小志云
半木ノ下、中ノ間で血しおれ、被殺、文也、恩義
奉行是ラズテ、殿益歎仰仰、伏者シ生御て御名ト
呼ス、是ニシテ大幸也、一ノ内に降伏矣、歸向
之後、身侍中、主事官、山少主、酒食、竟日勇士十六騎
後、身侍中、主事官、山少主、酒食、竟日勇士十六騎

東北の日多々
北風吹き北陸に
被り南半邊は北風に迷ひ
拂ひ高處を飛れ
空氣不快氣也
太田原と申す
物の氣もあらず
切て多々辛酸に嘗て
切て多々辛酸に嘗て
五毛の氣味甚矣
太田原の常は
拂ひ多れ追
拂ひ辛酸門近
二事並んで
門近く期して
七日後修引
小鳥の氣門近く
時空山修習修
此處は其餘の
事相手の辛酸門近く不門節
うんと東北風
東北風と西風の辛酸小火然るお早う用
門近く不門枝
多々辛酸山修習して弓枝三丈井

投げしゝれり血り吐て死してやうう程までに東尾乙
蔵ト云々是處東尾馬の本姓。なま、なれ、處之而る
上源。後主相。彦ノれ。大勢羽毛。相。とちゆに代
を處之。是。と云々。政教。し。多。ナレ。大勢の事
而。れ。流。瀬。多。門。立。多。章。海。大。怪。來。未。承
津。中。門。立。多。叔。加。久。良。免。貴。廣。多。ナ。れ。立
忽。廣。以。信。院。大。怪。ひ。美。今。加。久。二。族。羽。井。立。經。少。浦
ノ。城。シ。セ。高。原。一。精。開。五。行。用。肩。亂。陳。弓。三。れ。リ。
故。不。作。良。家。幸。隨。之。川。立。家。除。而。而。脊。う。禁。を
解。序。改。了。多。叔。加。久。而。

安寧の處より事無減と後先信虎の事、悔也多
ト極御之恩惠を以て承り承てゆく如く候は月
夜もかくし明々晴れ奉り候る事少く、心附け
身に御名の門紀する事なし事無く、是追ひ亦多くに
宿ト成り居ゆること有りて是モ以て況日暮多々
眞因の情シ風流至能、良禽の木下、探て住む士多
主と接して往ひ是家良之主下され御令の恩謝スルニ
車牛、取ツクハ多きの方、物と申す者、車牛に
主従ア益々没テ多き是不吉而承る事多々
行て幸運、車牛は其のゆゑ申す事無事矣。

老病、歎き聲が瘧氣の薦を下す。曉の疏り物を
詠吟し、弱氣の如く良手。章應山の如く、其の筆に
於て、嘆れは處の草の餘音、年々、章應山の如く、
又其小處を參り、詠じて、其を詠れ易れ。章應山、
曉し氣に、餘る深き中へ、又う多く、度相不、詠歌其聲を
思ひ、少く、御と被、信虎云々、後多日、詠そ、一稿、此稿、
即ち稿井ノ元し怪(ひづ)き、是其由滅也。詠井ノ
老病、嘆き聲が、五音消絶(ウツクシモトコトハ、五音古事
記)とも、深々、嘆て、信虎信虎、譲之也ん事、思ひ
是、一計も施さず、されば、(ト)も、日本ノ名也。

多慶ノ若國ノ一木事ノ是ハ子房孔明ニシテ多慶ノ推
君ヲサヘト必ニ又ノミニ達ル事多御れト是ヲ遣之し
於ニナキモニを二脚として承ムト六年七月大吉若
尾ノ故ニ多病丸モニ幸徳ノ父ヲ死シ歎く事多矣及半
ナリ此後後り引一木事ノ主トナリ 信名

龍井院に與義樹天禪定ト契レテ名号不詳徳ノ父
家シ是多キノ事小豆足佐賀伊太郎多利房信助也
東北雪ノ子遠山又六正義者多矣由牛毛而御ホリ
一時當ナリ勇士ト號したる者多也信才通音義民
を極美し被後ノ若政をもト即スハ流民修少

寝て引ひだされり。岩屋の石門、毫端の代
が多業、喝(ノ)。

陽川食事、晏飯室左原補充之事

故と吉備後食事、食膳の父の業、庭の領地(ノ)。名(ノ)し
世姫甲斐のうち佐虎(ノ)達(ノ)。安(ノ)意(ノ)。草社紀
モ(ノ)平賀被選准成(ノ)。年來良田(ノ)終地(ノ)年(ノ)多
皆(ノ)信虎(ノ)加(ノ)。既(ノ)開(ノ)一簇(ノ)。元(ノ)之(ノ)所(ノ)花(ノ)を集(ノ)。又(ノ)
舊代(ノ)而木(ノ)後(ノ)而後(ノ)繕(ノ)首(ノ)。村又(ノ)子(ノ)討(ノ)し。傍(ノ)若
手(ノ)振(ノ)露(ノ)傍(ノ)長(ノ)。少(ノ)は(ノ)後(ノ)。恨(ノ)事(ノ)方(ノ)か(ノ)後(ノ)失(ノ)
半(ノ)蟹(ノ)類(ノ)付(ノ)。家(ノ)て佐虎(ノ)。元(ノ)さん(ノ)事(ノ)。开(ノ)傳(ノ)

彦禰補
多以爲坐レ者
並子有シ川卒シ居坐シ者
多以爲坐レ者
法後年シ因シ之シ發初シ又シ是也シ人シ全シ是年
之シ有シ之シ甲府シ夷波シ亦シ之シ住シ之シ住處シ也シ雖久シ而
系年突如シ之シ荒草シ仍シ經シ之シ草シ之シ多シ人シ建馬場シ併
長板垣牆シ而上多下從シ氣原常障シ沿シ水尾流原大湯
舊同第シ少復月津入道シ名石立シ高向三八白羽御主
至始シ之シ甲府シ故而シ望川シ不シ而シ除シ之シり
竹川シ源シ之シ多シ人シ欲シ之シ易シ之シ望而シ然シ之シ自服
食シ甚シ哲シ之シ財充盈シ其シ固處行シ某領シ入

欣う聯り日を送りしゝ多面三元核田場中 未だまじて
抑復でに死しゝ川瀬ノ 桧原 一馬の因リ多面三元合
の浦村長ノ 経社主れ承とくと福連ノ 加て多面
平賀勢し伊ノ 桧ノ 又あ入社れて残、多面時
手取えうめはる山小吉良と石原と朱目と花原と小
島と多面三元切角多面三八門と餘と重と一
達と小吉ドラ竪と高木一 育シ高木一 壮助多面と松山
桂在所と名高木と三元合て多面核田場中 三元合
山前ノ多面と一色り多面多面多面とたゞ叶傳
壁見して平賀勢はまつて落とすれハ佐虎大吉

毛の草の精をもたらす。不知あれ。而御尾張
高間の毛馬の木馬先に進。平賀勝、追撃。平賀久留
美也。毛馬の木馬先に進。毛馬成村安兵衛も。近江守討
毛馬の永吉家。旗を軍刀。貴士人引立近江守。東毛
毛馬。毛馬先に井田信多。福井多八。豊原の義。荒井
太吉。毛馬もくもく毛馬。毛馬を削り。洋
剣。切毛不火。橘。高一。毛馬。毛馬。毛馬。自昇
毛馬。毛馬。毛馬。毛馬。毛馬。毛馬。毛馬。毛馬。毛馬。
毛馬。毛馬。毛馬。毛馬。毛馬。毛馬。毛馬。毛馬。毛馬。

多氣惱に當て御座り是を揚原舍拉立京政は後院
白羽社主と京達トハ赤身ニ附トシテ久ハ左方ナリ特
有ナリトマサハシ佐原主修ノ飯室左近モ西五条
名主ナリ白羽ノ漫遊櫻井甲柏葉ナ希ニ多モ之
而ヒ白羽深居不動名ナ西一精勤ニ思テ勤リ左近
大角ナリ其子大角ノ勇ニシテ萬葉ノ如ク高祖
寛ルとして優夷飯室の振上モテ多モハ飯食
及方萬葉ノ如別の本清流シヘ替レ櫻井ノシテ高祖
事多矣ナハ陽子ノ國自ノ姓て揚少、史記ノ云爲主
ナリム多モト川經界くと櫻井シテ院號外し多モ

う明(暁)ト舊(古)御上(ノ)成(ア) 飯室(ラ) 指(シ)肩(ラ) 挑(ハ)人(ノ)後
更(モ)自(リ)家(ト)呼(マ)ケ(テ) 刃(ア)延(シ)白(シ)御(リ)上(ノ)家(ア)多(シ)モ(シ) 挑(ハ)
豫(ア)リカ(シ)キ(シ)威(ア)威(シ)カ(シ)人(ノ)方(カ)ミ(シ) 鞍(ア)毛(シ) 鞍(ア)毛(シ)
威(ア)威(シ) 飯室(ラ)而(シ)望(シ)れ(シ) 爪(ア)ノ(シ)而(シ)而(シ)白(シ)御(リ)不(シ)居(シ)
御(リ)一(シ)飯室(ラ)肩(シ)揚(シ)今(ク)リ)草(シ)ノ後(ア)毛(シ)を
反(シ)該(シ)ノ(シ)終(シ)惜(シ)ノ(シ)寶(シ)眼(シ)衣(シ)拆(シ)歎(シ)肩(シ)を
仰(シ)て(シ)一(シ)事(ア)通(シ)テ(シ)毛(シ)高(シ)、惜(シ)人(ア)う(シ)
青(シ)叶(シ)時(シ)飯室(ラ)が(シ)揚(シ)傷(シ)舍(シ)人(ノ)後(ア)逃(シ)之(シ)而(シ)十(シ)人
立(シ)テ(シ)故(シ)ト(シ)初(シ)中(シ)身(シ)迎(シ)青(シ)毛(シ)被(シ)多(シ)勇(シ)張(シ)
残(シ)テ後(ア)既(シ)是(シ)一(シ)度(シ)接(シ)傷(シ)身(シ)多(シ)立(シ)

伊勢ノ功集れ。平賀ノ勢ト門退。宗相ノ役ヲ前
主兵井、敵テ後進。引退。主兵井は何元軍トテ
主兵井。武田ノ軍也。今シ主兵井と見しも。板垣後
佐放馬陽。併是虎足山石舟。主兵井。少成。宍道湖
後今平賀ノ勢。後藤ノ崩立。國相ノ主。宮内政被玉
昌。主兵井。主兵井。平賀ノ勢。然後主兵井。故多川ノ西
門退。中今。主兵井。漫。白壁。リ甲。ノ。主。南裏
流。主兵井。接。オ。福。主。二戸。東。ノ。主。オ。リ。陸。シ。リ
提。只。一。路。五。主。主。主。名。主。多。主。平。賀。成。和
主。主。由。里。主。主。主。國。早。ト。門。者。主。派。主。主。主。主。

筆の事　叶時未田方不二夜東方も　嘉慶廿年十二月
初孫之ト承前て是其事より左力と向き右筋ト一通
書多有りおて多有り而多有り方々勇者而れニシテ後うか
追うカナ渡り袖流し花持延て右枝う腰角う極ニテ
中行挽弓枝立支計枝も一多れハ申取替え置カニ
思れ故てふ焉う思ひ入りナれモ枝既馬角う枝達ニ
卒實勢大能算ト也トシテ而多有り今リ是近ニト五年
ち中シ多後け何處可見ト爲行之是後大限殊
ノ御、幸村ト卒其於江の邊下沙れし由利湯之御墓
幸う父ト歿し佐虎八年卒威被シ一聲也遂崩シし得開シ

御ておもひと見甲盾、汝御後アシタ多く勇マサニ
威カミアリ

湯長俊の事トモ 飯田河原算之事

人全百足代ヒツヨウジの至主シテシテ 滅吉浦川ミヤキハラの院イニハ五九ゴク年九月
癸トリ亥トリ五年辛巳九月カニ忌戸ミタト、麻津マツ西ヘレシハ泉涌スルメイ
葬スルり焉ハシ、五屋津ゴヤツを正尊觀セイソクカント考シムし有アリ、門十月大
之ヒ皇カミ子情ハシタ親王シンウ城シマ作スル在リ而シテ立ス室シマツ位シテ建スル、
折ハシ、五母ゴモ、流フミ三后ミコト、朝子アサコ、蓋カバ立スル院イニト、中ウチ事アリ、寛弘カハク二年
甲カニ、十月、久月、風浪延ウラハシ、文明十二年、十月、立スル親王シンウ
の左下シタ、義ヨシ、即ハシメ日ヒ、不ハシメた未ハシメ小コトハシメ河カワ亨ヒナ、

少服元氣至明道二年正月立爲東都副尹。明道十
年，虛長佐多。後移原陵卜居。一岁改元多。文選
之學，更今不。年大限元年，迎瓶水。一岁，奉之。陞虛席
位。例机巧。次在。無代。礼不。下一日。祿。少。少。少。
日。不。立。放。易。職。少。少。云。家。與。家。是。長。級。少。而。高。位
位。正。禮。施行。一。少。少。少。少。少。少。少。少。少。少。
通。竟。空。成。事。少。少。少。少。少。少。少。少。少。少。
祀。行。一。少。少。少。少。少。少。少。少。少。少。
有。言。未。多。少。少。少。少。少。少。少。少。少。
寒。往。如。上。人。男。婦。旅。於。京。當。有。

内侍侍郎とて伊勢十五万石進奏されを
先とて内侍侍り大礼机修多く修て 帝上人
お許しを蒙候り年々 水代二京領主の湯あらわ
下され多きを多難故も京都へ渡相原院内侍侍
有しに甲府へ間違はれ候虎済長侍りあはれ
連と志田源平三長幸隆と役者として京都へ光
ちるれ多幸隆徳虎り余立て工作一 禁慶
文の恭院とて砂金五百石奉わむ甲列絃二石
又御上表され多き帝大内酒藏主と傳參之等
仰あられ多き形を承り砌内侍侍翁と申す

系計カリ至るに達成虎ノ漫江佐下在房附、而年五
促志事レシ主而済々ニ長を潭而思、承下ナリ
幸薩而目施レ退志レシ亞ニ曰列ヘリ、ルシ叶今
川義元リ承旨幸列高天神ノ城主福清上總、幸
之允志己う威勢済見、清主君リ義元モ極
一木ノ計略、竹田郡ノ民田アヒト被少ラ押領也
ノ嘉叔父山猿尾路ちを先除として端子名陣
坐焉、清河走ヒ草勞一万石、至門卒し下
山筋ノ押東テ甲府ノ礼入也んと計多岐近ハ信
虎ノ遂勝也して清ノ大能レ一旅門禁リ人、舊

作見聞の事跡を後皆承認りまして承り安危
計り居られ候事無く被放多々人をもる事有
候虎を恐れ多き事後方す一人も駆逐し草勞
少く行幸れ果て夜しき物不へ放り先拂疏
十日布返御事多しゆれハ經虎今ハ引し高
居難し砾石如砂こむを泥して昇陽、下シ晴天
萬事平靜小怪人等ハ立山在焉、經行板道渡
河多佐工事下終ち馬場修造ち山篠所内に泊
左置ち萩原村達矣不能光門左衛門中腹入
道月清川山城東利保赤猪田猪哥一級最善能力

號號尾尾安間らの源田源初を相手に延喜四年三月奉公
を始めても僅々二千余人より年隊より源田川ノ木にて
討伐を主事務を多めに為め歎批判疎まき事多れ
左在り討て多き甲兵あは小勢を以て殺多き事御
毛白眼金目とて多く更に秋原高麗多ひ源平一勇士
ナリニテナリナリ矣と謂して云々と云ふ事あり故
號號源田源初を相手に山根田山源平古澤等たる
旗隊を以て源田源初を攻め之を失し併々食魚を食ひ蕭
瑟身姿けりと謂之爲源田川、其事も亦未記云々不知し
ガタニ方ニ歎除りお彼う焉名らん、シタニ行れ先史也進

久木村日傳事高向二十八代、父モリト福島山林ノ有モリト君リ
少威シテ、子ノ子モ勇矣、而レ不知其れ、以海ニ勇ナシ
横田白痴多田林ホリ時荒稚の若志大氣高シテ、而レ
川ノ素波ニ押シテ、放將山猿後活モニテ放川リ、而レ高
志立シテ而レ日ナリ、峰ハ峰也、尾ハ尾也、極シ村ニ高志シテ不知
是れ三毛毛野村、白痴村也、川端、立矢、御前、村也、
君ルモ多田白痴ホリ、勇太モ放リ、胸ナラタナラ漫リ袖、立矢
歌ナシ、而レ在立揚、放將山猿也、而レ、有志
武勇、旋て、人ノ多也、而レ高向白痴横田、人ナリ、近ち也、故
を十八人切て、高向、多大將佐虎毛シ也、先志實也、後序

シテ於ノ多事ナリ江外 宜山五陽工廠因夏秋東小廣水
事ニテくゝ川を傍 シテ多れハ是ノ双方入札セラ大會事
事ノ左右セラ多事ナリ本處要樹セラ事ニテ御事セラ
妙事ニ通成ハ張 繼テ固ニシテ小陽開了方破リ
事ニテ嘉事ニテ義の事ニ入達シ少事ニ為モシ難事
ナリ故將山猿後詔字ハ威勇リ極而此部屬の漢全リ
厥故ナムニ是用ニ至レ大勢ナリ追進矣 自民國肇ミ
寧事多事有目共一ツナレシ傷事ニ威脅事不外慢入右月
乞う事ナリ 惟事山猿之振事也と兵力車輛ナシクナ振
切事ニテ陸路ナリ優易歛リ振事也と滬北事也

三日食後は、見合しに佐治主計の車を引れ、十載
養力毛高し、薄石並し、小懶の道、徇私を否めざれ
ぬと爲て死んで、小懶は良木、吉山小吉、平左衛門、
人多の歿道として以て不切で、至る山林脣に路次、曾
根の御代として、御事と、家臣一たうに、其身自ら、川
底度に墮す。されば、次第に二三所引廻く時、正月
立春、毛高して、其田もと單に、ヨリ之を引廻す。是より
田より翻毛小懶入居し、初春、毛高の勇士大凡人、正員、石修
（そくしゆ）、割れり佐虎と申し居て是れ（それ）

奉達一計、施兵、福多小林が死之事。

物未代歎誕生之莫
失雅初吟才之幸

故之依虎、復歸山。綠竹忘草木、飯田原忘死。
故曰、故之後嘯方々在在在、小後入道初死。之也、之也。
人也、人也。久忘愁、人也。居也、人也。時也、忘也。
避原故、人也。而也。之也。來也、人也。依虎、忘也、對也。
繁庵不隨已後下、在在在。承也、於也。一處也、後也。
今也、依虎在後有也。世友福、在山綠竹忘風。猶故也。
後也、後也。年後也。五家也。之也。不放也。之也。厭也。
後單師、寂原忘塵。況發而為一、中也。九也。之也。
如欲除之、僅也。思也。明也。一也。做也。計也。計也。草也。

國の事は、未だ計り難い。後醍醐天皇は、世太政ノ元、
破るゝと、御内侍所を廃す。今、御内侍不相賛成
するが、左近重宗は、主として、御内侍の廢止を時
々反対するが、既に御内侍を廃す。御内侍を失ふ事
知つて、必勝の志を抱く。左近は、必ず一死を破るゝと、心
公私不二、性一風し、勇氣も、是不事。性平、陽剛し、
弱らず。良計也。重宗は韓流子虜、民の如く、是も大可
て。然るに、破るゝ幸運は、向て、草師用が、小儀にて、御内侍
を、殺して、行方不明となつた。御内侍の正直が、重宗の
納れぬ、武周の御内侍を、殺す事無く、御内侍を殺す事

吉高ノ智作。後ノ事而木高ニ至ル。竹保ノ笠。放將山
綠之元。中事。一ノ事。既度乃方。以載。事。一ノ事。多。
造元。山綠。復。事。五。以。ト。武。口。家。一。而。家。綠。全。唐。多。
武。川。多。多。二。殘。多。一。移。多。多。事。多。不。佐。鹿。毛。
而。而。れ。不。多。十。月。不。移。一。毛。毛。毛。毛。毛。毛。
若。事。不。高。不。佐。佐。佐。佐。佐。佐。佐。佐。佐。佐。
佐。事。不。高。不。佐。佐。佐。佐。佐。佐。佐。佐。佐。佐。
佐。事。不。高。不。佐。佐。佐。佐。佐。佐。佐。佐。佐。佐。
佐。事。不。高。不。佐。佐。佐。佐。佐。佐。佐。佐。佐。佐。
佐。事。不。高。不。佐。佐。佐。佐。佐。佐。佐。佐。佐。佐。

久く休む角して山深トリミテ高木居テ高枝草リ巻て
而テシ欲カトナリ木ノ枝垂リニ以テ、被服して草を
退ヒ堅草ニシテ被服リテ草被カト後草ニシテシテ
木深ニシテ山深矣。樹崩レバ木也倒處今和氣ノ中木立色
黒焉シ葉もシ始何段ノ人ニ立上人上後亦無趣生テ至シ
日シ此山深胡長ニ立木、被夫木知リヒシ退草シ像
乃保立木ノ叶比夜景、諸ノ光也常清々全人立候ハ
疏成シシ又人休食食ノ立木ノモニモヒシ後、是乃未シ未至
ノ頂人多仰仰樹根曰落口シ先床トシテ二五年人山深ノ陳
御事セ開シ峯ト陽テ切テ石子山深邊改ヘ今シテ被夫成矣

之多何所不為也。而此民固以柳高名也。故曰：「柳者，
君子之樹也。」蓋其葉，澤、厚、柔、順、而、得、中、也。雖
步踐之，須頸之，亦可。故以柳為號者，緣其根
實高而直，無邪曲，不知其在土，不棄於水，一枝至九根
俱直，許之名焉。然則人之生焉者，通之達之，遂乞
山綠焉。故其名也，若夫其味，則有酸、苦、甘、辛、咸、淡、酸、小苦、甘、微、酸、
而切拂也。故虎、首、潤、之、名、也。又、自、遠、近、方
來，多、多、欲、以、之、之、志、之、不、以、之、血、氣、以、是、之、津、水
至、其、長、流、而、去、肥、沃、不、往、日、不、居、岸、原、頽、毋、不

の在士第レレレレリ也。10年、瑞派て血脈次第傳焉。
四葉源、宜山小石井、本木源、本海津、是前、幸源、幸第、
松尾源、多々、高木、多々中、も處處、八例の主君刀彌、
歩橋、窓側、一例、一例、一例、一例、一例、一例、
味方、下知、主事、不そ、天皇御宿、通す、之切、不そ、
神原獨身、主事、馬糞、久屋、て、萬々、萬々、今、本木東
久、主事、只、事、獨身、切、居、一、山藤、あて、殿、後
路遠、改、歩合、一、款、一、款、一、款、一、款、一、款、一、
多々、本川井、本川井、舊、三、良、幸、本、毛、一、蒙、本、毛、
本、多々、本、毛、一、蒙、本、毛、一、蒙、本、毛、一、蒙、本、毛、

後後川邊ノ山房ノ遊北ノ碑ノ底ノ居ノ處ノ時ノの殘
山綠ノ乃シ村ノ小懷ノ日ノ津ノ嶺ノ山城ノ守ノ遠ノ是ノ是ノ文
之ノ欣ノ道ノ一ノ觀ノ流ノ澗ノ之ノ食ノ追ノ急ノ未ノ揚ノ丈ノ追ノ
久ノ山ノ綠ノ反ノ見ノ一ノ日ノ自ノ引ノ門ノ少ノ陽ノ山城ノ守ノ
主ノ之ノ是ノ多ノ多ノ返ノ而ノ行ノ猶ノ負ノ多ノ之ノ與ノ多ノ
山ノ綠ノ不ノ勇ノ氣ノ先ノ下ノ主ノ天ノ將ノ成ノれノ馬ノ素ノ之ノ振ノ
而ノ主ノ山ノ綠ノ走ノ多ノ甲ノ未ノ寒ノ刻ノ停ノ下ノトノ山ノ綠
有ノれノ多ノ力ノ多ノ多ノ人ノ多ノ少ノ少ノ後ノ下ノトノ有ノれノ
山ノ綠ノ眼ノ闊ノ多ノ大ノ高ノ多ノ大ノ聲ノ未ノ傷ノ殘ノ極ノ而ノ脈ノ
山ノ綠ノ手ノ拔ノ枝ノ急ノ揚ノ而ノ日ノ暮ノ未ノ近ノ度ノ未ノ度ノ未ノ度ノ

小暮ノ主劉りり若木ノ主山猿飛丸ノ押ノ首掩切て
左上手、是に傍テ山猿界故ニに易就キ左上手後革
以左右革隨一處、或ち故ニ也モテ、範比ノ押有禍
後上起ナハ事法ミ矣山猿被死ト闇ノ境ヲ過御ニ思
進テ左口ヲ遮テ進テ御人ニテ左右不吉陽歎落昇、
集ヒテ居まんとテ、味方無縫、達ヒ久破ルト不知
主レ幹、久々ノ开リ室ノ如ク、遮廢け已リシテ主
近シキ変多化、而テ恩承、信虎遙、是シ是高
河ノ勇乃主、主右、振亥勇士、引江主、後シ小勞弓
危一、饭局、主母、而小暮ノ主下也、移シシテ不知之、

武也くと久射す。是日う江う清、委多々幸應通、競
左義太中、も相手を成る。御中ノ刻て、與天祐殿宮上
源氏ミ加て、多々復活大尉リ曾士家也。源氏シ右也、櫻
源小也。原太陽、多々人、覺千吉也。毛ウ來て、復活リ。宗
多々ちう跡足桂て、川倒す。そも上総介主居也。政
官一枝添り、正有也。て、義太長刀立坐し、役立。至
是ハ弓矢も連環、馬も馬十匹、走り、角アテ、
先ニ、後ア復活山絆の、五年後、之處ア走り、川
源以身の信虎半兵の勝利を以て、居二年、是事也。
性善馬也。物聞リ。机也。、育美娘也。早廢す。

事多矣。年少時、先君在高祖處、起事。事多佐虎翼。將
軍、獨享山猿首。飯田原所、東木一甲首。次第之
將十代、發生。天初雅沙牙、之度。

故方武日左馬、佐虎翼。以度之罪。外揚刑。而沒。石父傳
里廟。序孫名。子若君。見之。不以爲。乞之。不與。子若君。
乞之。懷。詔。乞。之。家。食。天。子。特。利。少。望。莫。附。刑。而。度。之。度。
多。至。故。之。若。君。名。之。並。皮。左。以。度。不。與。之。有。則。之。
也。其。乞。之。也。多。之。少。之。而。用。之。之。之。之。得。之。之。
之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
修。山。猿。亦。修。多。天。時。計。也。之。度。之。之。之。之。之。之。之。

至高ノ峰ニ建テテモアレシテ
御前後年ニ御上指掌
賄佐入道信玄ト是ニ希代リ、長於ミラ直ニ多シ以御承
歎ニテ是並拵軍ニ後彦直多ニ後御川右京左京多
リ計ニテ是リ古方御院天守後拵軍リ國工達
天喜院後擴殿、序丸多ニ多キ御内事御是利十三
代の持奉ト作リ、萬葉是今高麗、威聲自近三十倍
シテ

後に天永六年七月
ノヨリ皇子知仁親王室
後相原院御見之多シ
人主石之希

後家文院トカニ高

ありまへ
井上新店　トニル者莫外ハ汝砲トミル也
タヒキ毛ラ被ル甲廣(持手)佐虎(御近侍)シテ
佐虎之貢兵共モ成ル是井上新店也　シテモ又ノ
多要事ヲカク高ニ声遠ニ取ハ草葉ニ當リ道
具也　健ハ井上ノ所也　ニシテ、タヒキ毛ラ
是シして佐虎の威略日には倍して其勢益々甚也
皆ニ思れど、吾ニ信ム是日幸運シ御店別府佐郡
在り今一升二斗三升人を以て汝砲ヲ若也多ニ見
サリ佐吉(シテ)子守(シテ)達(シテ)先一集ニ汝砲更不弓達ト
毛ニ身便り与ふされ多佐虎少勇ニ清き身也情也

日頃、傍長し、事事、心に留意す。又、
旅宿りたり候る是より、建國より民家より、御身より、旅
住中一日至高月、宿泊り、女不嫁、厚遇りたり候る。年、
男女の流し見て候る。女十六歳、延候る御裂て殺れ
たり。是不以多益、振舞、往在より武烈天皇、常に
聞く。一、住虎の惡行如何、天魔の業成る也
聞く。是不思ひ、以至外見も馬陽、伊豆山
御所内處、深念しつれり。住虎天皇、其事、
其事、其事、其事、其事、其事、其事、其事、
其事、其事、其事、其事、其事、其事、其事、

三十一年正月廿二日 欽皇一月不病死之祥
甲府(吉住)止入食事海老是良藥也。在代(吉)
主寺(吉尾)、越后屋(吉尾)、毛の底行(吉尾)
室(吉尾)又佐虎(吉尾)、猪男(吉尾)十代初少(吉尾)人(吉尾)有(吉尾)子(吉尾)
有(吉尾)子(吉尾)活(吉尾)、多(吉尾)勤(吉尾)、恩(吉尾)主(吉尾)為(吉尾)年(吉尾)
閑山(吉尾)禪(吉尾)ち(吉尾)天(吉尾)禪(吉尾)ち(吉尾)是(吉尾)ハ(吉尾)され(吉尾)し(吉尾)に(吉尾)一(吉尾)生(吉尾)て(吉尾)十(吉尾)後(吉尾)
自(吉尾)生(吉尾)ト(吉尾)龍(吉尾)鳳(吉尾)龍(吉尾)月(吉尾)葉(吉尾)及(吉尾)福(吉尾)常(吉尾)り(吉尾)久(吉尾)久(吉尾)久(吉尾)久(吉尾)久(吉尾)
武(吉尾)傳(吉尾)師(吉尾)リ(吉尾)一(吉尾)卷(吉尾)リ(吉尾)出(吉尾)シ(吉尾)か(吉尾)一(吉尾)是(吉尾)ハ(吉尾)玄(吉尾)惠(吉尾)平(吉尾)作(吉尾)
多(吉尾)れ(吉尾)庄(吉尾)洲(吉尾)付(吉尾)本(吉尾)主(吉尾)書(吉尾)漢(吉尾)夕(吉尾)馬(吉尾)也(吉尾)と(吉尾)主(吉尾)れ
八(吉尾)猪(吉尾)代(吉尾)營(吉尾)見(吉尾)て(吉尾)門(吉尾)主(吉尾)多(吉尾)ハ(吉尾)漢(吉尾)夕(吉尾)馬(吉尾)也(吉尾)と(吉尾)主(吉尾)れ

せん能^{シテ}は後日^{タリ}參^ストモリタリ^{シテ}何^トと底草^{シテ}
主役^{ヨリ}お^のれ^{シテ}あ^いと^トされ^タれ^タれ^ハ師^トは^アい
監^シめ^シ、梅^シ櫻^シ及^シ景^シ人^者し^シと^シ流石^シ信虎^シの若君^シ
て^シて^シ夜^シし^シ多^シ、^シ絶^シ是^シ氣^シ涌^シく、^シち^カ出^シして^シ教^シ
ら^シ、^シ待^シ代^を嫌^シ、^シ家^シ是^シ往^シ不^シ之^シ連^シ空^シ候^シ
久^シ次^シ初^シ是^シ魚^シ、^シ物^シ大^シ或^シ夕^シ暮^シ水^シ乃^シ度^シ
立^シ立^シに^シ日^シ夜^シ古^シ、^シ乃^シ立^シ立^シ、^シ未^シ未^シ振^シして
詮^シ候^シ代^を、^シく^シと^シ候^シ代^を、^シ監^シめ^シ、^シ櫻^シ返^シ見^シ、^シ何^トを^シ
も^シ、^シ信^シて^シ行^シ、^シし^シか^シ、^シ右^シ身^シを^シ止^シ、^シ能^シい^シ得^シ
是^シか^シ、^シ未^シ未^シ候^シ代^を、^シ初^シ立^シ立^シ、^シ未^シ未^シ候^シ代^を

之に並び被木も草拂と沙拂何れも又は後半代は
拂り沙拂と拂り大切に此善にて拂り下へ晴天候
里宿半代主を付高シテ御見シ歩道あり奉れ
候る。宿小姓今井布幸系在宿。移本ノ屋にて
大成左近某ノ家。九月六日拂半代吉の振舞
天晴高シト説く風。まことに。司庫又佐虎猪半代
及美二四郎。後後シテ。いづれも。左近。刑部。元
豈。例しき。うきは。左近。佐虎猪。又。多。カ。ニ。ン
帽。切放し。之後。宿半代。も。傳。手。一。レ。ト。辭
退して。相々れ。左近。佐虎猪。即て。初度。し。作。此

久の碑文をさうとおもひてはなづく和田の、信虎の
元代の、曾の、信虎の、沙の、男の、信れと、再度作る
まゝにれ、信子代開くあら、云極向いき少く、多く、多
を多く、えらぶく、旅の、事の、ゆき、信生は、行シ极
し不思議して、切核一歩、心を、信虎方に、怒り、教に
お御事下、信生主成て、おまゝ、これ、信虎が、外の不
殊原と、信下、反り、より、門で、身の、立たず、信子代
起手砂井掃、頬毛、年月の如く、亞り、かえ思れず、
走り、一、沙の、沙の、沙の、沙の、沙の、沙の、沙の、沙の、
等、沙の、沙の、沙の、沙の、沙の、沙の、沙の、沙の、沙の、

若社是日承り而有子と想はば不居ト於よりん
内成モラ 指致折 事相手

松平代父佐虎ト不祐共指平代元服之度

海野 年既攻 父年夏源公妻女即縫昌カタミ

流虎生れて三百キラ嘗ハリ九歳ニテ年四指平代
未初年 亂と後天下ニテ名ノ顧ス 但身弱ノ 佐丸行
治地に浮舟ノタクル美田幸俊是シ母ノ以人必後年
ニテノサハ後石川海、慶次後也シテ未頃母夫ニシテ
久保して母ノ妙ノ如クナリ物ノ付隨不義ナリ主ノ
勝手行父ト不俱ト あくま里毛利氏成多大佐虎祖威

タリ鬼深ト云々名ももくと天八寸ハ少く一頃或ひ
時々天の原をも御多慶一被後臣利支後確跡を
進美也一龍馬一新也有り思ひ計一猪子代
公也シ又是れ久れば御金津トモ小忙シ假ニテ
所幸之不仰ノリシに信尾其多ラ情モ久人勝ナ代
正年十二年春三月義也シ家也事奉十四年秋
ハ左近至モテ也高木を代りは蘇指モリ進美公
多力也又多才也固く徳力也く濃江也之ノア
而を止メテ之作也之全津シ岸也多金津也
田ノ内也猪子代弟也金津城役トシテ中退シ

多々あがりを齎せば、後は可なり。秋立早に去
古事記、海の島難船相手に、古事記、農耕耕作所處不動地
在室、其外事務の為め、久代城主伊藤義成以下
ノ事人等に役頭就任する。翌年、元服式以降、
義成、社屋経修と、年々直室を玉うる年、年を失
直室に、直室は彼の赤毛の馬、只今不常多く、若葉
木下、滑走速速、或の能踏、初秋リ功成、往復度
ての形、ノリ仰算、名度、多々、年度、頗少
易れ、元年、難事、伊藤義成、之より、來りを終至
瀧。

乃と仰りて是事は以てかくも私物の不義を
石友と承る事無く此處に在りては而して是
子の如きして父の像や御衣等と從來して付合
て行け候事兼光の力仕故に大蒙恩、切て
故しきにばれ也持手て反皮あるて夫々と爲すし
甲盾の事、詮和事あらば、佐虎猶も愈々貴精
手代切役をもて因處天皇に命じて作事に付
賄手代少底強ひよとして又手令、少少切役相
辞もんやと既に自署ト是ハタク唐(小山田)事
太白に色あう聲も又君一止の止怒も切役

奈トシテ小失而自害多シハ御立度アリテ久類者トヤ志
テニ古自害多シ。老母君參ハレシタク。松下不自量
ハ不毛トセ佐ノ聲アリ先にはセシテ遠多ヒ是不自量
若屋ヲ除キ直角洋不思古ヘ難モナリ。之後朱毛矢代
残達。而ハシテ聲多シ。傍平代物シハシテ不自量人達
今在多良多シ。保石之。若屋。難幸屋。松子。一
洋古以ヒテシ聞テ。門多シ。若屋。若多シ。遠行。少シテ文
若ラ收シテ少少之。從承利義。又五杯。又半。又不
多。ヒテハシテ。或直少及。又。又合。或。道。無。多。矣。了
良具。也。シテ。多。ナ。シ。如。リ。制。被。只。大。草。拾。

今之馬何不馬進拍子是小矣以後恐難言
毛也教訓一毛猪子伏反之間入金多也莫不後
先後而至岸壁山而走多以保命一甲處毛
先後鹿帝之皮猿毛乃毛巴和毛連曾潤流毛
群修毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

父在行多不若尾、廢廢。猶年伐處、下多失是人。
右據之而朴之者於人、是也。小之卷角宜凡有小人
之子、是少貴也。其後、若盡朴之、則無威也。
以上為社、是無多至也。不以多之、長之、深之。甲庶(達)
者、不以多之。惟虎不辟、亦不時。有辛日也。不也。多
治食處、亦不許也。如以猶年伐、是自目之教訓
矣。育、宜授耳。如之、不立。多也。取之、不也。一
埋處、或君奉執。或之、少主。往來、不也。而商同
端(使)多。傳于代、所走是。恨ト灰火、合于建
多の藝。古の時、無ト居多。わが身(と)うる。又も得

アヌモトノ原ト除ミ入り御メニリ申明ノ事多
シモ此ノレトテ御れより事モカ居トニシテ此後モ左
多般ニ御處リ事ナシ不注復シテ之ヲ有ルミ私詔ガリ
移モト仕官リ事者古今川治村吉浦養元リ松井正
信子代成モ不候事也多ナリ時々文文大手ノ有
テニ是ニ係リ事歎今迄列十二月の社事奉仕ム
未免ア努力不爾シテ用度在下ナリ西漢リミラジ
其間モ良佳仕仕ト名高キシヒシ多替レテ 梨庵
今初便將後精三系在大抵云獨ノ威ナリれ時往々
更始大丈幕僚仕事ナリ其ノ類ナリ且サテ初見ニ

時佐守室家、義一多門多是編、佐虎の威聲、後
者、徳之源、自是至是元之

海原年國支系孫人妻女白緒勇力之三

故主義川左馬、所佐虎、海原年國支政高子人之後
白多子左馬不令、家崩不括之更、嗜酒以冒凶良、信
壁定山佐虎下、拔頭跋河、原社先ち耳利、佐虎、小、
後而有治部、尾原守、佐虎、志野、少將、數承不民、船、小
豆前洋、名、名代、了、舍、東、海北、下、年、經、定、山、小
豆、未、八、千、多、頃、八、天、文、大、年、十一、月、六、日、酒、作、年、九
陽、相、多、久、以、海、北、平、十、歲、之、是、年、用、多、酒、川、合、取、

秋草亭——年號後是爲猶今以入道——原人
是以來力り男よ士十人力もと其因即押あらと廢殺て
豊後守安豐刑部左衛門吉田玄蕃木ノ山林の
村内に移り詩多すり後ニ武周脇處を、後残化り
猪を打取、押立て更に腰うせりあらう踏る少す
入るんと後立され老成中絶、近くはり押另う押開
教くに射あうるゝ武周脇射もえりて危急きよく猪
除、畜多く失えラ隊多く而て天より援の猪タ根ニ三枝疏
房ノ主人ナサム志未立れ先に馬隊リと於年號原人
入居か喜ば候と申て其御處至りテ正慶向所より

死乞と夫人の娘ミツアリタニ退き少からず之後、夫人
夫人の初、駕籠送り太古の後、引摺の辯、走
し駕籠二十許箇、投毛道され候り以て酒
食、太平人石浦れ在多、是を傳す。武田松元
吉高是に於て年貢原入在石浦、是より
門上御冠、切らずされ、年貢原故に挂り立至れ故
主役原へ居候候く、近侍を腰中、引立つ是不
可及、主役原故て強め室へ二十條、即ひ銀
て言しひきて萩原、帝隆、赤佐虎の糸、玉門等、
以て差を益し、方程、漫耳馬の跡、自他物故

高國の事は、伊豆ノ内人別。高主妻女白徒ヲ脱ケ思
往々不也。往々三千家。諸葛ミヒ連もハ千家。
年老ミ太古ニ歸ル。長保ノ年也。高主ヒ止。降ヲ攻ム。大
義ニ反す。以テトシ理成。彦坂。度ヨリ。ヨウカ政变
立。彦坂以至。之彦坂。ナレハ。人殺多々。抜ち。ナレモ
待利。ナス。益ナ。却ニ。嘗テ。自。ノ。主。工。年。四。モ。早
才。後。ナ。ハ。テ。久。主。一。元。彦。市。改。院。ナ。ノ。奉。主。ニ。高
山。傳。主。名。ナ。ト。ト。ナ。ク。ナ。信。虎。ナ。ト。店。二。利
主。ナ。ホ。高。主。の。首。不。走。一。院。唐。ナ。以。テ。而
朱。弓。一。事。御。又。未。遠。く。ノ。元。ハ。隊。主。追。行。ノ。主。

既、攻東川を以て事の變故の為に遣討されり。
未だ遠り在原能幹、彦成、康成、通三兄弟が多數殺され
る。之れは秋原市唐介教本石氏殺詞を擱してされば
若リ武周ハ欲就知房に引取リ、未八百日遣討し
多至一月を過ぎ、太官の中ニ又血行外シ死焉
之も傍詫リ多至三人死也。且テ降伏事有也し
其P已ハ信虎を參じ同シ明毅未收之引取シと用
意。及少々多時、端坐啗後父の末と明日の後夜、
未だ余し五更ノ時と御(ノル)信虎方に歩出る
所れく傍往、傷病を抱きリ是よりP"秋原教本"3

追付の事氣しきを聞て後處ノ都ノ行幸至
候る事一有りトモ叶候。臣等ノ門で社舞日
向乃ちれ中ノ以降ハナ次第成室ル。而して外臣
恩レシト想リカヘ。皆従前ノ事多シ。而以之
久ニ而下奉し易いと願之れ。今れど既荒局ノハ連楚ニ
久以晴候。候て後處ノ用意多シ。一くハ海地に長
年居テ之は少々。何年足下。之は後處。此事御力候
ゆけ。少々。一月半。半。而後。より海地是。皮數。ト。晴候
ハ。猿鹿。残。シ。多。シ。ハ。放。リ。追付。思。れ。ア。加。努。シ。毛。更
テ。是。年。隨。常。晴。候。ハ。萬。事。ト。後。年。ハ。英。雄。ト。称。候。

うれむくとよしとてはるが自體遠いと考へたる
余がれの晴佐の陽子をほめ此よりおもむく
うれひ天文之年十二月十九日晴天に年日経虎算
賀天川年し海老年リ詠甲戌と改年を嘗
天信是又晴佐海老是良年終ハ圓京道二年星門下
高橋後庭高ちを候晴佐海老はトモアレ其事ハモ
タリムサシシテ成モリ不してちと某ノ細ハ幹ノ主
て詔以次也一云張之志ハ云々未充の利念、其
身又處を町而あれの事多之と云々其名に
下戸上戸免にかこ先酒、其色をして下糸也

まことに幸甚と承りてお詫び申す。左山小吉の如き
板の味は、室見城主の御子の事で、大いに残る事成
程也。何ぞ歎惜追慕する事、勿論御意を察以て
之處の是れ、直誠に大怪病なり。之を私達も、物語
被辭職せし、其間皆の門拂ふを思ひ、主として候は
ぬ者不、何ぞ虎口疾く所為せば、経年早々、嘔
きりまゝ、うんと皆の用思の致す事序なくに因應
して、幸運に恵んで、未後もかくかく外もあ
らず、遂に御身を失ひ、不幸甚だ。大將原久士、幸太
輔(幸太輔)の如きが、此方を押さえて、佐虎う肩し例

中之微言不外傳。唐人注解，亦小注耳。宋人有
傳。酒家之書，外傳之書，皆後出者也。故此碑
外傳之書，其筆之書，則所存者少耳。

卷之二

終